第5589号　第3種郵便物認可　水道産業新聞　2022年（令和4年）6月23日（木曜日）（週二回・月・木曜日発行）（G-2）

「未来につなぐ　枚方の水道」を基本理念に

改正水道法で切り拓く 水道の将来

～基盤強化への取り組み～No.39

枚方市上下水道局

改正水道法では水道の基盤強化に向けた取り組みが進められることになっており、ここでは各事業体の取り組みを掲載していきます。枚方市上下水道局では「枚方市水道ビジョン2022」を策定しており、その取り組みを紹介していただきました。

枚方市の水道事業における基盤強化に向けた取り組み

1.はじめに

枚方市は大阪と京都の中間に位置し、東に緑豊かな生駒山系の山々があり、西には琵琶湖を主な水源とする淀川が流れる、面積65.12㎢の中核市で、今年度で市制施行75周年を迎えます。

昭和８年の給水開始以降、これまで７次の拡張事業で整備を進め、現在では、管路延長約1100km、浄水場1施設、受配水場等20施設を保有し、自己水比率約85％（大阪広域水道企業団受水約15％）、日最大配水量13万9800㎥（令和３年度実績）で、約40万の市民に対し安全・安心な水を供給しています。

2.「枚方市水道ビジョン2022」の策定

平成25年に策定した「枚方市上下水道ビジョン」に基づき、経営の健全化に向けた取り組みを進めながら、施設・管路の整備等を進めてきました。昨年度で計画期間の満了を迎え、本市水道事業を取り巻く課題や大きな環境の変化に対応しながら、健全な事業経営を継続するとともに、法令改正や国のビジョン改定などに迅速かつ柔軟に対応していくため、令和４年３月に新たに「枚方市水道ビジョン2022」として策定しました。

「水道ビジョン2022」は、未来へと持続可能な水道事業、つまり、安全・安心な水が合理的な対価をもって、蛇口から流れる日常が当たり前に続く水道事業を目標に、基本理念を「未来につなぐ　枚方の水道」と掲げています。また、基本理念の実現に向けて進むべき「基本方向」を、厚生労働省の新水道ビジョンに合わせた「安全」「強靭」「持続」の３つと設定し、その観点から将来にわたる本市の水道の理想像と取り組みの方向性を掲げています。「安全」では、水道水の安全確保として水質管理体制の強化、「強靭」では、確実な給水の確保として水道施設等の適切な維持管理や計画的な更新・耐震化、「持続」では、供給体制の持続性の確保として財政基盤や運営基盤の強化、施設更新の適正化、積極的な広報活動等を取り組みの方向性とし、水道の基盤強化に取り組むこととしています。

なお、本市のビジョンは、基本理念と将来の理想像、取り組みの方向性を示したものであり、これらの方向性に基づく具体的な施策は、下位計画である「枚方市水道施設整備基本計画」や「枚方市水道事業経営戦略」等に記載しています。

3．基盤強化に向けた取り組み

（１）水道施設の維持管理及び計画的な更新

「枚方市水道施設整備基本計画」

水道施設・管路の更新等の事業を効率的かつ効果的に推進するため、アセットマネジメント手法を導入し、50年間の水道施設整備の基本方針を定めた中長期整備計画と、今後10年間の実施すべき具体的な取り組み内容を整理した短期整備計画で構成しています。

水道管路については、水道施設情報管理システムの管路データを基に、老朽度・耐震性・水質劣化・社会的影響から総合的な優先順位を評価し、耐震化や更新を行っています。また、配水場等管路以外の水道施設については、中宮浄水場からの送水順路に従って重要度を設定するとともに、緊急度は施設の耐震性や老朽度などによる評価を行い、それらを総合的に判断した優先順位により、耐震化や更新を行っています。

（２）水道事業等の健全な経営の確保

「枚方市水道事業経営戦略」

良質な水道水を将来にわたって安定的に供給するため、中長期的な視点から経営の健全化と経営基盤の強化を図ることを目的として、経営の重点方針と今後の方向性を示しています。

経営指標の分析や将来の事業環境予測による課題に対応するため、経営の重点方針を「世代間負担の公平性の確保」と「持続を基本とした継続的な経営改善」と定めています。投資面では、前述の「施設整備基本計画」の短期整備計画と整合性を図った一方で、財政面では、現状で見込まれる収入・支出や、財源確保など収支改善に向けた取り組みなど見込める事項を反映しています。合わせて、純損失となる令和６年度以降の収支改善を図るため、収支ギャップ解消に向けた取り組みを定めており、令和10年度までの中期経営基本計画として位置付けています。

また、水道料金の改定については、総括原価を算定し、現行の水道料金との比較検証などから適正な料金水準を見極め、料金改定の可否を定期的（５年ごと）に判断することとしています。

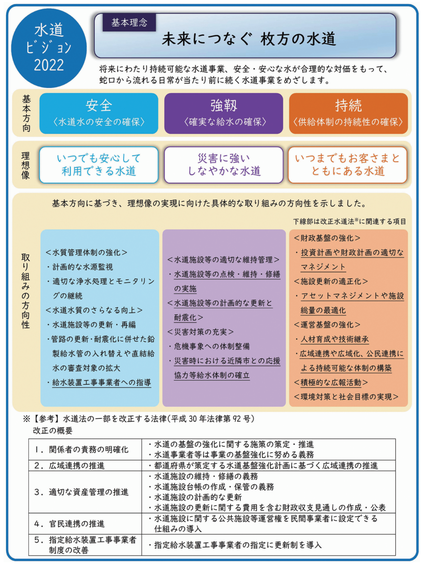
（３）水道事業等の運営に必要な人材の確保及び育成

「枚方市人材育成基本方針」を基本に職場内外の研修を通じて、技術の継承を含めた人材育成の推進や、府域一水道を含めた広域化・広域連携、民間による質の高いサービスの調達や事業コストの削減のための公民連携などにより、運営基盤の強化に取り組みます。

4．今後に向けて

将来世代に負担を先送りしないために、水道施設や管路の現状と計画的な更新需要の必要性、総括原価方式を基本とする料金制度の必要性等について、市民からの理解を得られるよう、積極的な情報発信に取り組んでいきます。

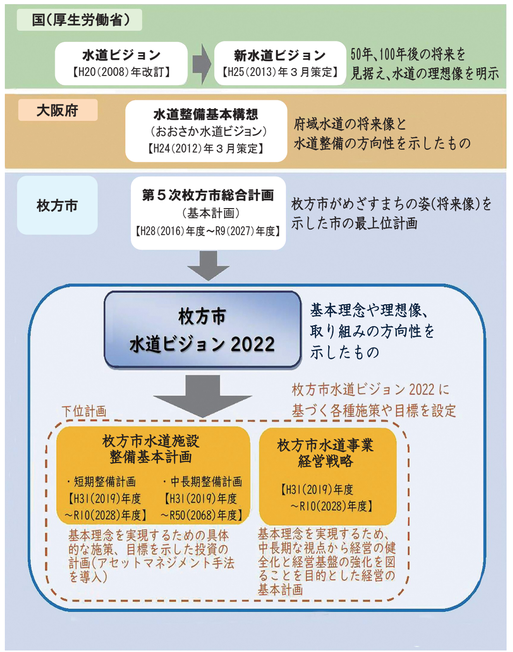
また、「施設整備基本計画（短期整備計画）」と「経営戦略」については、５年ごとに見直すこととしており、令和５年度の見直しに向けて準備を進めています。合わせて、これらに記載している具体的な施策や目標を推進することにより、「ビジョン」に掲げた理想像を実現するとともに、持続可能な水道事業の基盤強化に努めていきます。



ビジョン2022の概要

ＤＢＯ方式による中宮浄水場更新事業　完成予定図
（本図はイメージのため今後の進捗に伴い変更が生じる場合があります）

中宮浄水場～田口山配水場間送水管更新工事（φ700㎜）



ビジョン2022の位置づけ

津田低区配水場耐震化事業（右上写真はステンレスタンク内）

水道の基盤強化に寄与する企業

株式会社 ＮＪＳ	コスモ工機株式会社	新日本設計株式会社（長野市）	東洋濾水機株式会社	日本水工設計株式会社
株式会社 寛設計事務所	株式会社 清水合金製作所	株式会社 タブチ	株式会社 日水コン	株式会社 ハズ
栗本商事株式会社	株式会社 新大阪エンジニアリング	千代田工業株式会社	株式会社 日邦バルブ	前澤給装工業株式会社
株式会社 栗本鐵工所	シンク・エンジニアリング株式会社	株式会社 東京設計事務所	日本ジッコウ株式会社	

以上の企業各社のご協賛によりキャンペーン企画を進めています。
―五十音順―